

人権への道

同和問題の疑問に答えて②

お父さん
きびしすぎるくらいきつかった
お父さん
なんにも教えてくれないまま逝
った。お父さん
胃のただれるまで飲んだ。やけ
酒のこと
朝星 夜星で働き続けた。お母
さんのこと
お父さんやお母さんの苦しんだ
そのわけを
早くおしえてほしかった
お父さん。なんにも知らなかった
小さいころ。わたしは。あなた
をのろってました。学校へ行
きたい。勉強がしたいのに。
「貧乏だからなんにもできない」
働かないお父さん。なんかも
この詩は、ひとりの部落の婦人
がつづった詩集「春駒」に掲載さ
れている一編です。
「わたしは詩人ではない。ひと
りの部落のおんなとして、差別の
実態を詩によって表現しただけで
す。ひとつひとつの詩は、わたしの
歴史です」とみずたさんは、詩
集の発刊にあたり、語られていま

人間の 尊厳を

でもよいのに。大きくなっても
親孝行なんかするもんか……
お母さんを助けるため。一銭で
もよいにとクズ鉄をひろいな
がら。わたしは。あなたをのろ
いました
お父さん。でも今は違います。
お父さん
みずた志げこ
知ることができたんです。お産
をして三日目。名前もつけてい
ない赤ちゃんを背負って。あ
い顔して働いた。お母さんの苦
しみも。学校へ行かれなかった
そのわけも。……お父さんが。
話してくれなかった部落差別の
ことを。いま。知ることができ
ます。
作者がはじめて詩を書いたのは、
一九七一年から始まった北久保支
部の識字学級のなかでした。部落
差別のしくみを知らなかった作者
は、識字学級で差別のしくみを学
ぶことにより、酒を飲んで働か
なかった父への恨みに終止符をうつ
ことができたことと述懐しています。
人間の尊厳を、教育のなか
に——
人間としての命脈を、子ど
もたちのうえに——

いま学校では

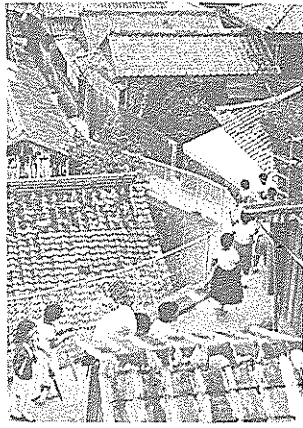
【問8】
いま学校では、同和教育に
ついて、子どもたちにどのよ
うに教えているのでしょうか。

【答】同和教育は特別な教育では
ありません。
同和教育は、社会生活をおくる
ために必要な基本的な生活習慣を
きちんと身につけ、おちこぼれを
つぐらず、しっかりと学力を保
障し、一人一人の全面発達をはか
ると同時に、部落問題を正しく認
識させ差別を「しない」「させな
い」「許さない」子どもづくりを
めざした教育です。

人間としての文化を、部落
のなかに——
ひとりの婦人として、部落民と
して、ひとりの人間として、この
詩集にこめられた情感は、生活そ
のものを語っておられるだけに、
胸がしめつけられる思いがします。
この詩から受ける感動の余韻を
大切にしながら、前回にひきつづ
いて、最後まで熱読くださるよう
お願いします。

1. 差別が、ここにこんな形であ
るという事実がつかえる。
2. その差別は、どれほど私たち
を苦しめているか、いかりを覚
えさせる。
3. その差別は、なりたち、しく
みはどうなっているかを学びと
らせる。
4. 差別をなくしていく道すじを

明らかにして
いく。
5. 差別をなく
すために、わた
したちがどう働
きかけをすれば
よいのか、その力
を身につけさせ
る。



フィールド・ワークする
小学生

されなかった部落住民に対して学
習の機会を保障し、地区住民みづ
からが部落問題をきちんとつか
み、部落差別の不合理、人権の尊
さを自覚し、部落解放の理論を身
につける学習をおこない、教育文
化を高め、部落の完全解放をなし
とげるための力を育てる教育活動
をおこなっています。
具体的には、同和地区の社会教
育施設として設置された集会所を
中心に各種学級、教室を開設して
います。
ご参考までに、同和集会所事業
の概要をあげてみますと
(1)同和地区子ども会学習活動
(年間学習時間一二〇時間)
国語・算数・同和などの加力
学習。
書道教室、珠算教室
(2)部落解放高校生友の会活動
毎月二回実施
(3)同和地区青年学級 (三学級)
毎月一回定期学習
(4)同和地区婦人学級 (二学級)
毎月一回実施
(5)成人教育
定期学習 (毎月一回実施)
継続学習 (書道・生花・手芸
・料理・着付け・謡曲・詩吟
・舞踊・茶道など)
(6)識字学級
前浜識字学級 (毎週一回)
野中識字学級 (毎週二回)

自からを 高める学習

【問9】
部落解放は、地区内外の住
民が共に努力すべきものだ
と思うが、地区内ではどのよ
うに学習にとりこんでいるで
しょうか。

【答】質問の同和地区内での学
習のとらえですが、差別のため
に十分な教育を受ける機会を保障

私のおいたち

このように部落内においても、
地区の人たちは、差別のない社会
の実現を願って自分自身をきたえ
るよう努力しているのです。



識字学級生と小学生の交換会

私は、今年七十九歳。いま思い
出しても、なみだがあふれてくる
ような楽しいことや、つらいこ
とがありました。また、反対に小
学生のときに受
けた、友だちの
やさしい心をい
つまでも忘れら
れなく、七十年
たったいまその
人に一目会って
礼を言いたい、
そんななつかし
い思い出もあり
ます。
私の家は貧し
く、みんなが朝
早くから夜おそ
くまで一生懸命に働いても、私た
ちのくらしは少しも楽になりませ
んでした。私も子どもなりに両親
の手伝いや、子守りなどで学校を
休みました。休みたくて休んだの
ではありません。みんなといっし
よに遊んだり、勉強をしたかった
のです。

私は、一日、弟を連れて学校へ
行きました。しかし、みんなから
勉強のじやまだといやがられ、そ
れからはずっと、学校を休み守
りをするようになりました。
なわ飛びや遊びの仲間に入れて
もらえず、やっと入れてもらって
も、みんなが遊びをやめてほかの
場所へ移って行きました。
そのころ、お茶はオケに入れ、
飲みたい人は、竹のひしやくで自
由にべん当箱へくんで飲んでいま
した。ところ
で、部落の子
が先にお茶を
くんだオケか
らは、部落出
身でない子ど
もは決してく
みませんでした。
また、机も
腰掛けも二人
掛けで、その
机や腰掛けの
中ほどに線が
引かれ、少しでも手や本が境を越
えようと、だまって押しつけられ
たり、いじわるを言われたりしまし
た。あの小さい机や腰掛けのこと
ですから、それは毎日のことであ
った。
嫁入りして、買ってもらった時計
の針の見方がわからなく困った

